

# 第13回「一隅を照らす運動」 群馬大会開催



発行日  
令和6年1月1日  
発行所  
高崎市中尾町1261  
TEL.027(362)5620  
天台宗群馬教区宗務所  
発行人  
三浦祐俊  
編集責任者  
小出行観  
印刷所  
芝入印刷株式会社  
TEL.027(253)4937



◀ 4・5頁に特集記事

伝教大師1200年大遠忌 記念法要



年頭の  
ごあいさつ

群馬教区宗務所長

三浦 祐俊

新年あけましておめでとうござい  
ます。令和六年の希望に輝く新  
春を迎え、天台宗徒・檀信徒の皆  
様にはご家族ご親族揃って、お健  
やかに過ごしの事と拝察お慶び  
申し上げます。

私儀、昨春秋の群馬教区役員任  
期満了による改選に当たり、三度各  
位の御信任を賜り、浅学非才を顧み  
ず宗務所長の大役を仰せつかりまし  
た。宗祖大師様の「己を忘れて他を  
利する」のご精神をもって、思い新  
たに群馬教区の歴史と実状を継承し  
後世へ引き継いでまいりたく責務を  
全うする所存でございます。宗務副  
所長をはじめ各主任共々、何卒ご支  
援ご協力の程お願いいたします。

新型コロナウイルス感染症発生か  
ら五年目を迎え、感染症が五類に移



年頭の  
ごあいさつ  
神宮 直仁

新年、明けましておめでとうござ  
います。輝かしい令和六年を迎えた  
檀信徒の皆様、謹んでご挨拶申し  
上げます。

新型コロナウイルスの世界的な大  
流行も少しずつ収束へ向かい、生活  
が通常に戻りつつあります。しかし  
ながら、檀信徒の皆様におかれまし  
ては、何卒お体を労わり、無理をな

行されても決して安心できる状況で  
はございません。またロシアのウク  
ライナ侵攻、イスラエルとハマスの  
衝突など世界的事案の発生、さら  
に地球温暖化による気候変動とその  
影響より発生する自然災害など、な  
かなか先が見通せない状況ではあり  
ますが、事態がどのような方向に進  
むにしても、天台宗徒・檀信徒とし  
て今を生かされている私たちは、心  
を新たに大師様のご遺徳を偲び、  
報恩謝徳の心を持って、置かれた状  
況の中で最善を尽くして日々を過ご  
しましょう。

さて、天台宗徒・檀信徒の皆様  
のご理解とご協力により、昨年三月  
三十一日を以て十一年にわたり天台  
宗で展開しておりました祖師先徳鑽  
仰大法会も円成となりました。そし  
て、群馬教区では七月に開催した第  
十三回「一隅を照らす運動」群馬大  
会には、参加された八五〇人の皆様  
の心の中に残る大会が執行できまし  
たこと重ねて心より御礼感謝申し上  
げます。

さらぬようご自愛いただきたく存じ  
ます。

昨年五月に、群馬教区檀信徒会  
連盟・伝道師会連盟総会研修会、六  
月には鬼石町の浄法寺にて、伝教大  
師報恩法要および境内清掃奉仕活動  
を、三年ぶりに通常の人数で執り行  
うことが出来ました。更に、七月に  
は第十三回「一隅を照らす運動」群  
馬大会が、伊勢崎市のメガネのイタ  
ガキ文化ホールで開催され、教区内  
住職や檀信徒の皆様、総勢八五〇名  
を超える多くの参加者によって盛大

また、令和三年度より群馬教区の  
部面再編を検討し令和五年八月一日  
付にて富岡部と多野部が合併し富岡  
多野部となり、群馬教区十三部の編  
成になりましたことご報告申し上げ  
、ご理解ご協力をお願いいたします。  
(2頁に後述詳細説明)

群馬教区並びに各種団体において  
は、感染症拡大に今後も気を緩める  
ことなく、関係各位と充分協議のう  
え適切に対応する所存です。

皆様におかれましては、今こそ、  
宗祖大師様のご精神を体して「己を  
忘れて他を利する」「一隅を照らす」  
の旗印のもと助け合い支え合い、そ  
して、季節性インフルエンザと新型  
コロナウイルス感染症の同時流行を  
防ぐため、「新しい生活様式」の実  
践にてお過ごし頂き、新型コロナウイルス  
感染症の収束と、風雨順時に  
して心穏やかな幸多き年であること  
をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶と  
させていただきます。

に行われました。

このような教区の活動が通常に近  
い形で再開できたことは大変喜ばし  
いことでもあります。しかしながら、  
私たちは過信することなく新型コロナ  
ウイルスの脅威を再認識し、引き  
続き感染予防を心掛け、季節性イン  
フルエンザの同時流行にも注意して  
過ごす必要がございます。檀信徒の  
皆様には「新しい生活様式の実践」  
を何卒お願い申し上げます。年頭のご  
挨拶とさせていただきます。

群馬教区 部画再編を実施

新たに「富岡多野部」が誕生

天台宗群馬教区（報告）宗務副所長・眞木興空

群馬教区においては、本年度、旧富岡部と旧多野部の合併による「部画の再編」が行われ、「富岡多野部」という新しい部が誕生しました。

以下、再編にいたる経緯をお伝えし、教区の更なる発展と安定した運営に向けて、今回の取り組みについて、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

群馬教区（三浦祐俊宗務所長）においては、令和三年六月、教区内旧部画十四部より各一名の「部画再編検討委員」を選出し、「群馬教区部画再編検討委員会（以下、委員会という）」を設置、権頭俊澄委員長（北群馬部委員）、大沢亮湛副委員長（世良田部委員）を互選の上、協議を開始しました。

教区部画の再編について

は、過去、平成八年から十五年にかけて検討が行われましたが、この時には再編には至らず、部の名称変更（旧総社部→西前橋部、旧大胡部→東前橋部、旧碓氷部→西群馬部）のみが行われました。

以来十八年の年月が経過（令和三年、委員会発足時）し、令和の新时代を迎える中、「平成の市町村合併等の社会変化への対応、平均した寺院数・住職数による各部の安定した運営、各部の檀信徒会・伝道師会の充実した活動、各部住職の平等な公職勤務の実現」等を主な目的として、今回の委員会が設置されました。

委員会では、令和三年七月から令和五年二月にかけ十三回に及ぶ協議（うち二回は合併提案該部同士による拡大会議を併修）が重ねられ、その間、教区内全寺院への部画再編についてのアンケートの実施、事務局による各部を訪問しての説明会、また、三浦宗務所長から全寺院への趣意書の送付など、慎重かつ熱心な検討を行いました。

また令和五年九月に再編についてのアンケートの実施、事務局による各部を訪問しての説明会、また、三浦宗務所長から全寺院への趣意書の送付など、慎重かつ熱心な検討を行いました。

一連の協議を総括し、令和五年三月、権頭俊澄委員長より三浦祐俊宗務所長へ「委員会最終答申」が提出され、同年三月二十七日開催の第一四三回群馬教区議会ならびに「一隅を照らす運動」群馬教区本部理事会において、権頭委員長より同答申が報告されました。

続いて、四月から五月にかけては、最終答申にて合併を提案された部同士による、複数回にわたる調整会議を経て、六月二十九日開催の第一四四回群馬教区議会へ、「旧富岡部と旧多野部を合併し富岡多野部とする」という内容を含む「宗務所長方針（群馬教区新部画条例案）」を上程、慎重審議の結果、全会一致による可決承認がなされました。

群馬教区においては、この議決を受け、天台宗へ「群馬教区条例一部改正」の承認願いを提出。令和五年七月十八日付けにて、天台宗において承認がなされ、令和五年八月一日より新たな教区部画（旧富岡部と旧多野部が合併し十三部構成となる）が施行されました。



三浦祐俊宗務所長 全国宗務所長会会長に就任

三浦祐俊群馬教区宗務所長におかれましては、去る令和五年十一月十六日開催の「第一〇七回宗務所長会議・定例総会」において、全会一致の

ご推挙により、天台宗全教区の宗務所長により構成される、全国宗務所長会会長に選出され、ご就任の榮譽に浴されました。

謹賀新年

Table listing staff members of the Tenmonkyo Group of Churches, including titles like 'President', 'Secretary', and 'Clergy' along with their names and temple affiliations.



# 伝教大師一千二百年大遠忌奉讃 第13回「一隅を照らす運動」群馬大会

## 大会テーマ－共に生きる－



しょうぐうさんがお出迎え



満員の会場

令和五年七月三日、伊勢崎市文化会館（メガネのイタガキ文化ホール伊勢崎）において第十三回「一隅を照らす運動」群馬大会が開催され、県内各部から集まった天台宗徒約八五〇名の参加者により、盛大に執り行われました。

この大会は伝教大師最澄様の「一隅を照らす」精神を基に、より良い社会を目指し実践する記念大会で、四年に一回行われております。

三浦祐俊「一隅を照らす運動」群馬教区本部長（群馬教区宗務所長）による主催者挨拶にはじまった大会は、竹内純照「一隅を照らす運動」総本部長、なら

びに水尾寂芳延暦寺執行による祝辞が述べられました。

記念法要では「伝教大師和讃」に参加者全員でお唱えし、参加者の一人一人が、改めて伝教大師最澄様のご生涯とその教えを鑽仰いたしました。

休憩後には教区女性僧侶グループ「きらめき」によって『散華』が唱えられ、荘厳で華やかな時が過ぎていきました。

また大会テーマ「共に生きる」を書家の金澤翔子氏によって席上揮毫が行われ、揮毫中の会場内は凛とした空気が張り詰めていました。

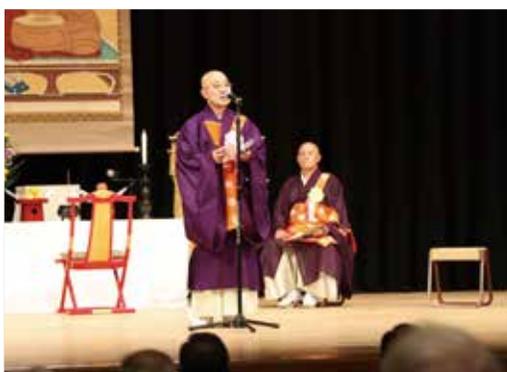
揮毫後には翔子氏の母親である金澤泰子氏による講演が行われ、親子二人三脚で書の道を歩まれた体験が語られました。



開会の辞 神宮檀信徒会連盟会長



開会式



祝辞 竹内純照一隅総本部長



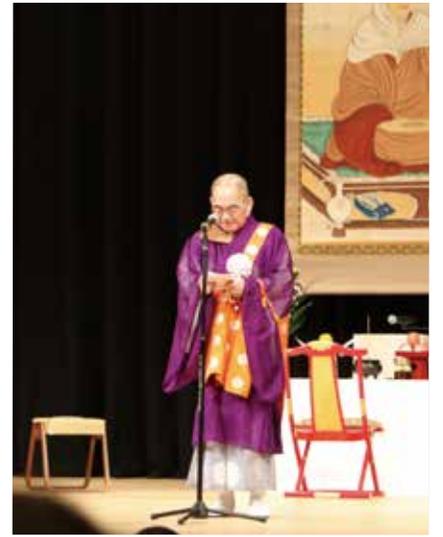
主催者挨拶 三浦祐俊教区一隅本部長

### 大会プログラム

- |         |              |
|---------|--------------|
| 開会の辞    | 神宮直仁檀信徒会連盟会長 |
| 主催者挨拶   | 三浦祐俊教区一隅本部長  |
| 祝辞      | 竹内純照一隅総本部長   |
|         | 水尾寂芳延暦寺執行    |
| 記念法要    | 伝教大師和讃       |
| 女性声明    | きらめき『散華』     |
| 席上揮毫    | 金澤翔子氏        |
| 講演      | 金澤泰子氏        |
| アトラクション | 「上州事変」落語会    |
| 実践目標宣誓  | 高木照範教区一隅副会長  |
|         | 池ノ谷正寛教区一隅副会長 |
| 募金贈呈    | 門倉政仁教区一隅会長   |
| 閉会の辞    | 嶋田仁伝道師会連盟会長  |



記念法要 伝教大師和讃



祝辞 水尾寂芳延暦寺執行



女性声明「きらめき」



会場を巡る法灯



不滅の法灯



金澤さん親子によるトークタイム



大会テーマ 「共に生きる」



席上揮毫 金澤翔子氏



実践目標宣誓 池ノ谷正寛教区一隅副会長



実践目標宣誓 高木照範教区一隅副会長



群馬出身落語家ユニット「上州事変」



講演 金澤泰子氏



フィナーレ



閉会の辞 嶋田伝道師会連盟会長



教区からの救援募金



募金贈呈 門倉政仁教区一隅会長

## 第五〇回 天台宗檀信徒祖山参拝研修会

令和五年十月三十日より十一月一日までの三日間、第五〇回天台宗檀信徒祖山参拝研修会が比叡山延暦寺において開催され、本県檀信徒会連盟神宮直仁会長他九名が参加しました。

仏の世界をあらわす曼荼羅の上に花を落とし、その場所の仏様とご縁を結ぶ結縁灌頂けつえんかんじょうを授かることにも、根本中堂において坐禅や朝のお勤めに参加し仏道修行に励みました。また二日目には京都大原三千院門跡、三日目には青蓮院門跡を参拝し、沢山の仏様とご縁を結ぶことができました。



結縁灌頂入堂風景



根本中堂中陣にて坐禅修行



結縁灌頂の直前



三千院御門主よりおことば



延暦寺会館にて



青蓮院門跡庭園



研修生一同

令和五年十一月五日から七日の日程で、「群馬教区第四十八回伝道師補任祖山研修会」が行われ、三日間にわたる研修を経て、教区から新たに三〇名の伝道師が誕生し、座主親下から任命辞令を賜りました。

一行は総本山延暦寺にて、坐禅止観、礼拝行、徒歩による諸堂巡拝、写経等、熱心に研修に励み、更には、群馬県出身の千日回峰行者である、上原行照大阿闍梨様よりご法話ならびにお加持を頂戴し、感激の中、充実した研修を満了いたしました。

## 群馬教区 第四十八回伝道師補任祖山研修会



止観実習



浄土院参拝

また、帰途、群馬教区独自の研修として、東海教区の名刹・瀧山寺様を参拝。重要文化財指定の本堂、三門、ならびに、運慶・湛慶作による「聖観音・帝釈天・梵天」の三体の仏像（いずれも重文）等を拝観させていただきました。見聞を深め群馬に戻りました。



諸堂巡拝



写経実習



上原行照大阿闍梨様ご法話

新住職紹介



西前橋部 光巖寺 田中 常順 師

令和五年 九月一日



富岡多野部 恩行寺 安田 孝廉 師

令和五年 十月一日



桐生部 善雄寺 真下 智成 師

令和五年 十月十日

令和5年度 群馬教区布教教学研究会 開催

群馬教区布教師会（角田興憲会長）では令和五年九月四日に伊香保温泉ホテル天坊を会場に「令和五年度布教教学研究会」を開催しました。十二時半より開会式。三浦祐俊群馬教区宗務所長を導師に法楽、つづいて宗務所長、布教師会長より挨拶。十三時より第一講としてフリーアナウンサーの落水七重先生による『人に伝わる話し方』と題し「伝わる声、良い声」の感じ、発声の仕方や「表現テクニック」として発音練習、口の動かし方、など実践を交えてご講義頂きました。十五時から第二講。上越教育大学准教授の塚田穂高先生による『これからの仏教・寺院の役割ー現代日本の宗教ー社会状況から』と題し、現代日本の宗教観、世界の宗教観など比較、また専門の新興宗教の考え、とくにカルト宗教の問題などを講演。私たち伝統仏教としてどうするべきか？などあらためて宗教者の役割などを考えさせられました。十六時半より閉校式。眞木興空宗務副所長を導師に法



落水七重先生



角田興憲布教師会長

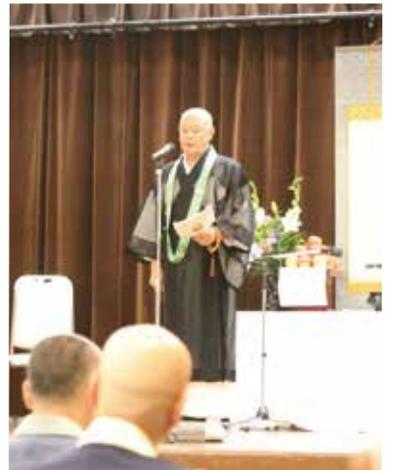
楽。次に渡辺玄晃教区布教師会副会長による講評。続いて修了書に参加者に授与し閉式となりました。コロナ禍で中止・縮小が続きましたが、久しぶりの宿泊を伴う研修会。実りのある会となりました。



研修風景



塚田穂高先生



三浦祐俊群馬教区宗務所長

得度

令和五年 七月二十九日 高崎部 法森寺法嗣 新発意 三浦興宣  
令和五年 七月二十九日 高崎部 法森寺法嗣 新発意 三浦興縁

示寂

桐生部 善雄寺住職 眞下 俊信 師 令和五年七月三十一日 六十八歳  
北群馬部 石原寺法嗣 千葉 照英 師 令和五年十一月二十一日 五十歳  
北群馬部 石原寺前住職 千葉 照光 師 令和五年十一月三十日 七十八歳

Table listing members and their titles: 一宗功労者表彰 (住職五十年勤続: 慈眼寺住職 中泉 玄洋 師, 住職三十年勤続: 龍藏寺住職 眞木 興空 師, 安樂寺住職 大澤 祐敬 師, 金剛院住職 伊藤 亮朝 師, 最勝寺住職 林 行弘 師, 一宗公職歴任: 法森寺住職 三浦 興寛 師, 最勝寺住職 塚田 亮正 師, 清泉寺住職 池ノ谷 正寛 師, 蓮華寺住職 紺野 元嗣 師, 布教功労: 法輪寺住職 三浦 興優 師, 自性寺住職 田中 浩道 師)



大般若理趣分 伝法会  
令和五年十月三十一日、群馬教区宗務所にて群馬天台青年会が主催する大般若理趣分伝法会が開催されました。県内寺院より三四名の僧侶が参加し、善光寺大勸進副住職小堀光雄師より、大般若経の中でも特に重んじられる理趣分の伝法を授かりました。

